

草の根仙台シュタイナー学校

秋の教育講座2009

子どもと病気

子どもの成長と小児疾患

子どもはたくさん病気をします。子どもはどのようにして病気になるのでしょうか。子どもが病気になってしまったときには、一体どうしたらいいのでしょうか。子どもが罹る病気とその必然性を、子どもの成長を追って考えます。

「お医者様」と「お母さん」両方の視点から、子どもの病気についてお話していただきます。

講師 藤原 葉子

プロフィール 1968年岐阜県生まれ。1994-2000年 三井記念病院麻酔科勤務。長女の水中出産を期にシュタイナー教育と出会う。2000年北海道へ移住。シュタイナー教育と本格的に関わるようになる。2006年長野で行われた第3回交際アントロポソフィー医学ゼミナールに出席し、アントロポソフィー医師となることを決意する。2007年より札幌市で内科に勤務。

「札幌アントロポソフィー医学に基づく健康相談の会」主催。シュタイナー教育をめざす子ども園「にじの子」理事。中2、小6、小3 育ち盛りのお母様たちのお母様。

日時：11月23日（祝）仙台市青年文化センター 研修室2

受付 13:15 開演 13:30 終了 15:30 定員 50名

参加費 一般 3,000円 友の会・学生・会員 2,000円

（お子さんをお連れになつてのご参加は、必ず事前にお問合せください。）

「講演会」と明記の上、11月15日（土）までに郵便局の窓口・ATMで下記へお振込みください。

郵便振替：口座番号02210-7-101803 加入者名：シュタイナー教育講座

なおお振込み後の返金はできません。11月15日以降のお申込は500円増の当日清算となります。

問合先 Tel./Fax. 教育講座担当 022-255-5057 (9時~20時)

後援 仙台市教育委員会

草の根仙台シュタイナー学校は、子どものための土曜クラスです。
1997年に始まって以来、子どもと大人の学びの場として仙台で活動しています。

人間が人間として育てられるために。
人を愛し、いのちをはぐくむために。
人生が実り豊かなものになるために。

シュタイナー教育は、
人間の「からだ」「いのち」「こころ」の成長に働きかける教育です。
成長の段階によりそう愛情に満ちた働きかけは、
子どもの健やかな発達を促します。
健康な体と生命力、豊かな心を育んだのち、
子どもは心から自分の決断が下せる「自由なおとな」へと成長していきます。

大人になったとき、様々な状況の中で、よく考え、
自分の気持ちに伴った、自分なりの決断ができる人になること。
シュタイナー教育が目指すのは、「自由への教育」です。

シュタイナーの医学

ルドルフ・シュタイナー(1861-1925)の人間観に基づく思想は、さまざまな社会実践の中で生きています。最初のシュタイナー学校は1919年にドイツのシュトゥットガルトで開校しました。医療の分野では1921年にスイスのアーレスハイムで、イタ・ヴェークマン・クリニックが始まりました。経済の分野では、ドイツ、ポッフムを中心にある銀行、そしてバイオダイナミック農業を行う農場は、安全でおいしい食品を供給しています。

シュタイナーの医学では、全人的な人間を診ます。現代医学で用いる診断に必要な方法に加え、体質、体型、ものの感じ方、動作の特徴、家庭や仕事の環境、生育暦、生活暦、病歴も診断のための大切な要素になります。たくさんの観点から患者さんの体のバランスや、機能的な働きを判断し、治療方針を決めます。人間は個的な存在です。同じ病気であっても原因や経過は違うのですから、治療のあり方も一人ひとり違います。治療は、シュタイナーの薬学に基づく医薬品、物理療法、オイリュトミー療法、芸術療法などから成り立っています。

近年現代医学の発展は目覚しく、身体的側面における診断はより詳細なものへと発展しています。シュタイナーの医学は現代医学に取って代わるものではありません。現代医学に新たな診断と治療の可能性を与えるものです。シュタイナーの医療を行う医師は、現代医学の知識および技能を持っていることが前提です。

シュタイナーの医療は現在ドイツを中心に欧・米・豪 60以上の国々で行われています。日本でも、国際アントロポソフィー医学ゼミナールが始まりました。その後、薬剤師のゼミナール、看護ゼミナールも始まりました。現在日本各地の医療現場で医師、看護師、薬剤師、芸術療法士、オイリュトミー療法士による実践が始まったところです。